

東白川村 美しい村づくり 委員会

第 27 回

○場 所：ふれあいサロン

○時 期：平成 30 年 7 月 23 日 19:00~21:00

○参加者：委員 9 名 一般参加 3 名 行政 3 名

第 1 高野教授との学びの場

「持続可能な東白川村をデザインしよう！～第 2 回なりわいづくり～」
平成 30 年度に委員会では高野教授による勉強会を 4 回予定しています。
今回はその第 2 回が行われました。

1 高野教授のプロフィール

名古屋大学で地球学を研究後、環境学へと移籍。現在、名古屋大学大学院
環境学研究科・持続的共発展教育研究センターで教授を務める。様々な専
門家と協働し、主として地下資源が枯渇した千年後も成り立つ地球と社
会のシステムを作り出すための『千年持続学』を研究。地域住民、行政と
ともに中山間地の地域再生に取り組んでいる。

◆「ミライの職業訓練校」校長

◆近編著：「持続可能な生き方をデザインしよう」（2017 明石書店）

～世界・宇宙・未来を通していまを生きる意味を考える ESD 実践学～

2 レクチャー「なりわいづくり」の内容

- (1) なぜ若い人が田舎から出て行くのか？認識のギャップ。
- (2) なぜ若い人が都会から田舎に来るのか？
- (3) 発想の転換を。地域に仕事を用意するのではなく、試行錯誤しながら自分の生業を作っていける機会と仲間がいる状況をつくる。
- (4) 生業のつくり方。
 - ①起業

②雇われるでもなく起業でもない働き方・暮らし方

③継業

- (5) 事例：岡山県西粟倉村「ローカルベンチャー」
- (6) 事例：豊田市旭地区 「アサノエンタープライズ」
- (7) 事例：豊田市旭地区 「すぎん工房」
- (8) 事例：恵那市飯地町 「移住者の例」
- (9) 事例：豊田市旭地区 「戸田新聞店」
- (10) 仕事は作るものではなく、できるもの
- (11) 多職から天職へ
- (12) 天職とは？
- (13) では、どうする？ → みんなで話し合みましょう
「若い人を呼び込むには、試行錯誤しながら自分の生業を作っていける機会と仲間がいる状況を作らなければならない。」

3 話し合いでの意見

- (1) シェアハウスは、いろんな事が生まれる場。村にあるといい。
- (2) 「雇われるでもなく起業でもない働き方」は自分たちと重なる。
- (3) 加子母でも、このように集まる場があったらと思った。
加子母と東白川村で交流ができるといい。
- (4) 神棚の仕事は、高齢化もあって移住者が「継業」できる可能性がある。しかし、自分としては1人では荷が重い。
継業もシェアできれば・・・。
- (5) 都会ではお金はあるけど時間が無かった。
しかし村に移住して豊かな生活があることを知った。
- (6) 田舎は専門家を雇えない現状。
であれば、雇うのではなく発注すれば良い。結果多様な関係が生まれる。
- (7) 忙しくて交流がなかなかできない。
- (8) 村に移住して、多業な働き方をしてきたが、現在は転職を見つけることができた。(食と国際貢献)
- (9) 若者が都会へ行くのは、田舎のせいではない。それを知ることがで

きて良かった。「機会」と「仲間」が大切！地域は交流の場を提供すればよい。

そして、交流の場といえば居酒屋。

皆さんは、普段、夜をどう過ごしているの？

4 まとめ

話し合いの結果、シェアハウスは仲間と機会を提供でき、移住体験や地域との交流の場としても機能するのではないか。

また、空き家改修を交流イベントとして行うのも良い。地域のシェアハウスの現状について高野教授からレクチャーを受けることとなりました。

第2 次回について

1 委員会 8月20日(月) 19時～

(会場) ふれあいサロン

(内容) 持続可能な東白川村をデザインしよう

～高野教授との学びの場～

「第3回 地域のシェアハウス」

以上

※次頁写真掲載

